

競争的資金制度改革に関する論点例について(案)

<競争的資金全般>

- 今後必要とされる競争的資金総額とその内訳をどう考えるか
 - 我が国の論文指標等の低下を止め、向上させる(ノーベル賞級の成果を挙げ続ける)ために、競争的資金は今後、何と何にいくら必要であり、総額としてどの程度(現在4255億円)が必要なのか
- 競争的資金の基金化による「定量的」成果をどう測定し、訴えるか
 - 競争的資金基金化の効果として、アンケート結果等の定性的結果は明らかであるが、今後、大規模資金へも基金化を進めるにあたって、国民的理解を得るための「目に見える」成果は何をもって訴えるか
- 競争的資金の配分先について
 - 現在の競争的資金は個人の研究活動助成となっているが、大学の基盤的経費不足により機動的対応が困難になっていることを踏まえ、大学に対する配分とすることについてどう考えるか(可否・留意点等)
- 英国式の研究成果に基づく、資源配分について
 - 英国では、各大学の研究評価結果に基づいて資源配分が行われているが、我が国においても同様の仕組みを導入することについてどう考えるか(要否・留意点等)

<科研費>

- 論文等国際指標低下への科研費の対応について
 - 競争的資金の6割を占める科研費は指標低下に対応すべきとの指摘にどう応えるか
- 科研費の目的の整理について
 - 一つの制度に「裾野を広げる(少額配分)」ことと「峰を高くする(重点化)」が併存しているのは効率的か
 - 両者が併存する場合、各々の比率(現行3:1)をどう考えるか。
- 科研費の成果について
 - 全体的な成果(客観的データ)が明らかでない中、有効性は社会的に認められていると言えるか
 - ピアによる現行審査で、世界的な競争力をもつユニークな研究課題は効率的に発掘されているか
- どの分野でも採択率が同程度であることについて
 - 「強み」や「弱み」に基づき採択率に傾斜を付す配分方法とすることについて、どう考えるか
- 科研費に関わる数値について
 - ① 新規採択率30%の根拠及び当該数値の今後の意義
 - ② 298細目の必要性
- これまでの改革の効果について
 - これまで実施された改革によって、研究活動・成果の何が、どう変わったと評価するか